

青森の未来をデザインする

—本州の最北端の地「青森」からの発信—

戦後、我々が営々として作り上げてきた社会制度・社会システムは、地球的規模での社会、政治、経済、文化等の著しい変化に伴い、不適合となり、現在その見直し、改革、再構築を余儀なくされている。

本講座では、この地球的規模での変化を「進化のための良きチャンス」の到来と理解して、新しい社会の建設に向けて、各々の専門的研究の立場から、新しい時代の「世界・アジア・日本・東北・青森の在り方」を考えた上で、新しい時代の「青森の未来」をデザインしてもらうことにした。

現代社会の特色は、①グローバル化時代、②高度情報化時代、③価値観の多様化時代、④地球環境保全化時代、⑤地方主権化時代、⑥生涯学習の時代、⑦先進国と新興国共生の時代等と言われている。

わが国は、戦後に経済的資源のない中、日本人の素晴らしい人的資源を活かした「加工貿易立国」として経済の再建を行い、高度経済成長を成し遂げてきた。私達は、この「経験と知恵」を踏まえて、同時に「現代社会の特色」を踏まえて、過去から学び、過去にとらわれず、「断絶と継承の精神」で「新しい社会」、「新しい青森を」を創造しなければならない。

本公開講座では、経営学、会計学、経済学、情報学の研究者・教育者に、新しい社会の青森の未来をデザインしていただき、新しい青森の創造、進化、活性化の方向を提言していただくことにする。

第1回 9月18日(火)

青森の高等教育をデザインする

—青森から
世界への「人材育成」を目指して—

青森公立大学学長 香取 薫

第4回 10月9日(火)

市場経済下の農業をデザインする

—世界の
食糧流通基地「青森」を目指して—

青森公立大学教授 河野 秀孝

第2回 9月25日(火)

青森の観光をデザインする

—青森から
世界への「観光発信」を目指して—

青森公立大学教授・札幌学院大学名誉教授 藤永 弘

第5回 10月16日(火)

青森の自治体経営をデザインする

—地方主権時代の自治体経営を中心に—

青森公立大学教授 遠藤 哲哉

第3回 10月2日(火)

青森の産業をデザインする

—青森の地域産業の活性化を目指して—

東京都市大学教授 井上隆一郎

第6回 10月23日(火)

青森の安全社会をデザインする

—青森から
「安全・安心社会」を目指して—

松蔭大学教授・中央大学名誉教授 石崎 忠司

申込方法

開催日前日(必着)までに受講を希望する演題名、開催日と住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、連絡先の電話番号を記入し、郵便、FAXまたはE-mailでお申込みください。

郵便送付先:

〒030-0196 青森市大字合子沢字山崎153番地4
青森公立大学地域研究センター公開講座係

FAX送信先: 017-764-1564 地域研究センター

E-mailアドレス: kouza@bb.nebuta.ac.jp

いずれの回も

時間: 18時30分~20時30分

場所: アウガ5階

青森市男女共同参画プラザ研修室

対象: 一般の方

定員: 50名程度

受講料: 無料

主催 ▶ 青森公立大学 ☎ 017-764-1561

URL <http://www.nebuta.ac.jp/>

青森の未来をデザインする

—本州の最北端の地「青森」からの発信—

第1回 2012年9月18日(火)

青森の高等教育をデザインする

—青森から世界への「人材育成」を目指して—

青森公立大学学長 香取 薫

戦後、わが国は、「民主的な平和国家」とともに、「加工貿易立国」として経済の再建を目指して中央集権的な体制の下で、世界の経済大国の地位を築き上げてきた。教育界においては、加工貿易立国に有用な人材育成が高等教育の社会的な使命であった。経済成長とともに18歳人口の進学率が高まり、大学は「エリート型大学教育」(大学進学率15%)から「マスプロ型大学教育」(大学進学率30%)へ、そして現在は「ユニバーサル・アクセス型大学教育」(大学進学率50%以上)へと移行して現在に至っている。また、現代社会は、グローバル時代、高度情報化時代などの新しい時代を迎え、大学教育は「グローバル人材育成」、「IT人材育成」などが急務となっている。本講座では、このような状況を踏まえて、これからの「青森における高等教育の在り方」を考えてみたい。

第4回 2012年10月9日(火)

市場経済下の農業をデザインする

—世界の食糧流通基地「青森」を目指して—

青森公立大学教授 河野 秀孝

現在の日本では農業就労者が高齢化し、後継者が減少し、各地で深刻な問題が生じている。また、これまでの価格維持や補助金等は昨今の財政状況から削減される傾向がある。このことは青森県も例外ではない。資源の有効利用の観点からも、生産性を向上させ、海外での経営も視野に、農業部門は国内市場のみならず、海外市場の動向を見据えた自立的経営を模索する必要性が求められている。本講座では食糧流通基地「青森」の可能性を貿易論の観点から考えてみたい。

第2回 2012年9月25日(火)

青森の観光をデザインする

—青森から世界への「観光発信」を目指して—

青森公立大学教授・札幌学院大学名誉教授 藤永 弘

青森の美しい四季と自然の景観、安心・安全・新鮮な農産物、海産物そして畜産物、素晴らしい文化や歴史など、青森は観光の「宝庫」でもある。この青森の素晴らしい観光資源を、国内・国外の人々に提供することは、青森県民の責務であると考えます。また、観光は裾野の広い産業でもある。本講座では、青森県民が「おもてなしの心」を持って、青森を訪れる観光客を「目で感動」させ、「耳で感動」させ、「心で感動」させ、「胃袋で感動」させ、「歩いて感動」させ、「トライで感動」させ、「実体験で感動」させ、「鼻で感動」させ、「触って感動」させる「観光立県、青森」の未来を考えてみたい。

第5回 2012年10月16日(火)

青森の自治体経営をデザインする

—地方主権時代の自治体経営を中心に—

青森公立大学教授 遠藤 哲哉

青森は、自然豊かな住みやすい環境にある。新幹線の開業に伴い、東京へ走行時間が3時間余となり、都市との時間的距離も短くなっている。グローバル時代において、潜在的可能性を引き出すチャンスでもある。様々な逆境をプラスに変え、青森県民が、知恵を出し合い、「豊かな自然」の中で、「心豊かに生活のできる青森」を創造する絶好のチャンスである。そのためには、県民・市民・町民・村民、産業界、学界、官界が一体となり「青森の未来像」を語り、可能なものから実行・実現していく必要がある。本講座では、従来の「自治体行政」から新しい時代の「自治体経営」への移行の必要性と青森における「自治体の戦略的経営」を考えてみたい。

第3回 2012年10月2日(火)

青森の産業をデザインする

—青森の地域産業の活性化を目指して—

東京都市大学教授 井上隆一郎

グローバル化と技術進歩の加速、さらに日本特有の少子高齢化の進行の中で、日本の産業全体が大きな、歴史的な変革を迫られている。特に競争優位産業が存在していない上に、人口減少、高齢化が進む青森においては、抜本の変革は待ったなしだが、その方向性が必ずしも明確でなく、動きも極めて鈍い。キーワードは内発起業、草の根イノベーションの二つである。この観点から青森の地域産業活性化の方向性を考えてみたい。

第6回 2012年10月23日(火)

青森の安全社会をデザインする

—青森から「安全・安心社会」を目指して—

松蔭大学教授・中央大学名誉教授 石崎 忠司

東日本大震災を契機に、東北地方のみならず日本中で安全・安心な街づくりに関心が集まっている。住みやすい街は、ハードの面で地震や台風に強いというだけでなく、ソフトの面で、信頼できる社会であること、郷土の文化や人間関係がされていること、働く機会が得られることなど、生活の質が確保されていることが必要である。本講座では、安全・安心な社会とは何かを考えてみたい。